



長瀬町小中一貫教育検討委員会の第7回会議を開催しました

長瀬町小中一貫教育検討委員会の第7回会議を令和7年11月25日（火）に開催しました。今回の会議は「答申案」作成に向けて、児童生徒の推移についてや老朽化に伴う学校施設の維持管理など、検討委員会の経緯・経過を確認し、その後ワーキンググループを行いました。

検討委員会からの「答申」に重要となる

- ①「児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について」
- ②「義務教育学校と小中一貫型の小学校・中学校はどちらがふさわしいか」
について、3つのグループに分かれて討議を行いました。

Aグループ メンバーの意見

- ①「児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について」

【施設一体型がよい】

同じ建物の方が児童生徒、教職員の連携がしやすい。

教育上のメリットが多い。中一ギャップの解消、ふるさと教育など連携はしやすくなる。

同じ建物のほうが建設の費用が抑えられる。

- ②「義務教育学校と小中一貫型の小学校・中学校はどちらがふさわしいか」

【義務教育学校がふさわしい】

- ・先生方の定数や小学校中学校の免許状の関係でメリットがあるのではないか。
- ・最初、小中一貫型をはじめて、義務教育学校という流れという考えもあるが、それほど差がなければ補助金等のメリットがある方がよい。



※この検討委員会だよりは、小中一貫教育の検討状況等について、町民の皆さまにお知らせするために発行しています。

会議資料等については、町ホームページをご覧ください。

検討委員会事務局（長瀬町教育委員会）



Bグループ メンバーの意見

①「児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について」

【施設一体型がよい】

- ・施設分離型は老朽化や、新しく建て替えるとなっても余計なお金がかかってしまう。
- ・同一敷地隣接型は児童数が減少し、無駄な施設になる可能性が高い。
- ・施設一体型であれば教職員の教科対応などうまくいくのではないか。

②「義務教育学校と小中一貫型の小学校・中学校はどちらがふさわしいか」

【義務教育学校がふさわしい】

- ・児童生徒同士の交流がしやすい。
- ・ふるさと教育などやりやすい。
- ・教員同士が一つの職員室で一緒になると、カリキュラムや、校庭の利用など、スムーズに進めやすいのではないか。



Cグループ メンバーの意見



①「児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について」

【施設一体型がよい】

- ・給食センターも含めたものを造るのがよい。
- ・新しく校舎を造るのであれば、将来を見据えて、必要最小限の施設で造るべき。

②「義務教育学校と小中一貫型の小学校・中学校はどちらがふさわしいか」

【義務教育学校がふさわしい】

- ・補助金を十分活用できるなら最初から義務教育学校で良い。
- ・義務教育学校も小中一貫型も大差がないならカリキュラムをいろいろ工夫をして子供たちが、ふるさと長瀬が大好きになるような、ふるさと教育に力を入れてほしい。



これまでの検討委員会において示された意見や、議論された内容を整理し、今後の小中一貫教育施策の指針となるよう「答申」をとりまとめてまいります。